

——24年3月期は増収増益。受注残高は前々期に比べ96億円増の343億円となった。

「前期は鉄鋼向け脱炭素型プロセスラインやNEDOのグリーンイノベーション基金事業などの大型案件が増え、業績を押し上げた。増収増益だが、当社の実力を考えると、まだまだ伸びしろがあったと思うている」

「今期も引き続きEV部品・半導体部材熱処理炉への対応があり、また鉄鋼向け連続焼鈍設備などの受注により、今期末の受注残高は357億円となる見通し。受注残増などに伴い、今期も増収増益を見込んでいる」

——24年3月末時点でプライム市場の上場維持基準に適合した。また今期も前期同様に増配を予定している。

「プライム市場の上場維持基準の適合については一安心している。一種のベンチマークとしても位置付けており、基準をクリアするため、企業として進むべ

## 中外炉工業 尾崎 彰社長



### 2024 トップインタビュー サステナビリティ経営の針路

#### 真空炉、電磁鋼板ラインなど

#### 「既存商品をブラッシュアップ」

き方向などが明確化してメリットも多々あったと実感している

「今期も増益を見込んで

おり、利益増は株主へも還元していく方針。当社は5カ年（2022～26年度）中期経営計画目標として、安定的な配当政策を基本とし、自社株買いも含めた総

加している。既存顧客から、難しいことや新たな取組のリピート注文と異なり、新規顧客の受注は機能・要望のすり合わせや詳細な資料作りに時間を要する。潜在的な顧客はこれから伸びる分野への設備投資を進めるため、当社で機能面や納期面においてしっかり対応できる体制を構築していきたい」

「現在、設計支援システムを開発している。要件定義の管理などを一元化するとともに、経験値・暗黙知の見える化を進めている。温度範囲や条件、製作中のトラブルといった過去の膨大なデータを整理して可視化し、マニュアル化を進めている。簡単だが手間がかかる無駄の多い作業がシステム化されることにより効率的かつ迅速に処理することができるとしている。中計の進ちょく状況について。」

「今期が中間地点であり、ホップ・ステップ・ジャンプというステップの部分。最終年度の数値目標（売上高415億円、営業利益36億2千万円、ROE10.0%）に向けて、しっかりと

「研究開発による機能改善やサービス向上、または既存技術の応用展開により、拡販・利益向上を目指すしている。電池素材用熱処理炉、真空炉、ステンレス連続光輝焼鈍ライン（BAL）、電磁鋼板ラインなどを対象にブラッシュアップを進めている。中計では約10億円の研究

## 脱炭素製品で貢献、PBR1倍超目指す

した体制でジャンプできるよつに今期は問題点を整理していきたい」

「3期連続増益となったことでROEは8.5%まで向上している。加えてPBR（株価純資産倍率）については、中計で成長戦略および株主還元施策など明確な方向性を示し、0.84倍まで向上している。諸課題をクリアしてPBR1倍以上を目指していく。カーボンニュートラル社会の実現という大きなテーマは、電熱、水素・アンモニア燃焼技術を活用した脱炭素製品を手掛ける当社にとって追い風となる。脱炭素社会実現への貢献にもつながる中計目標を達成したい」

「数値目標だけでなく社員の働き方の改善・働きがいのある職場作りにも注力していく。熟技術を核として新しい価値を創造し、これを通じて社会に貢献するとともに企業の繁栄と社員の幸福を実現する、というのが当社の経営理念。この理念に則り、会社の舵を取っていききたい」

（綾部 翔悟）